

第7号

「すきです ふじみ！」

よいよい 富士見づくり

地域づくり通信

富士見地区地域づくり協議会

回覧



事務局 前橋市富士見町小暮1588-1 小川 浩 TEL 027-288-5439

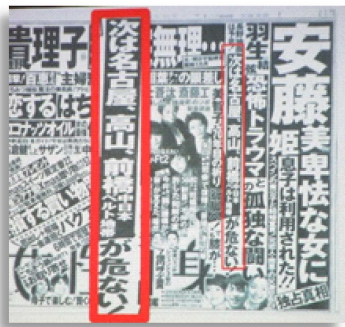
やがて来る、必ず来る その時に備えて命をまもる

● 自助を学んだ、防災講演会



十二月十三日に富士見公民館で防災講演会を開催しました。講師は前回好評だった中越防災フロンティア理事の木村浩和氏。今回はスタツフの長島亜紗子さんも同行。参加者は男女半々の約八十名で、最近の多様な災害への関心の高さがうかがえました。講演はまず「災害が最も少ない群馬県」という県民の安全神話の検証からスタート。冒頭に紹介された『女性自身』の衝撃的な見出し、『(の大地震)は名古屋、高山、前橋』からいきなりのインパクト。実はどの被災地もその時までは「自分の所だけは大丈夫」と思っていたそうで、群馬県も津波以外のリスクは全く同じだそうです。

人は危険に遭遇した時に「きつと大丈夫」と思い込もうとします。これは「正常性バイアス」という防衛本能の様ですが、まずこれを排除することが必要とのことでした。また災害直後は消防や行政などの「公助」もダウンするので、救命・救出には地域の「共助」が欠かせないそうです。



そして自然災害の発生は防げないので「減災」のため、まず「自助」で備えることが大事とのことでした。

● 防災をオシャレに楽しく学ぶ



備えの基本は三日分の水と食糧備蓄。救助の三種の神器はバール、ジャッキ、のこぎり。また日頃の訓練が大切で、訓練は何かのついでにさりげなく楽しく相乗りするのが効果的とのことでした。そういえば長島さんの名刺にも「防災を、もっとオシャレに楽しく！」とアピールがありました。

木村氏のプレゼンは映像や図表がとてきれいで分かり易く印象的でした。「微分/積分型災害」や「正常性・同調性バイアス」などのタイトルには技術者ならではの豊かなセンスと学識が感じられ、理念と行動の両面でもためになる講演会になりました。



ふれあい交流部

羽鳥 一夫

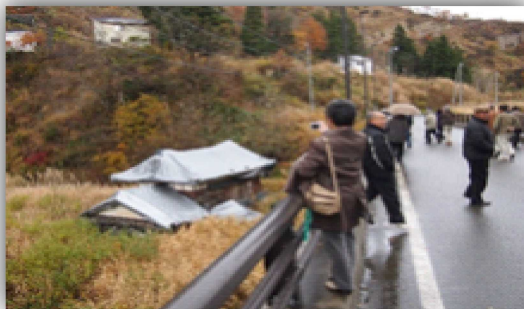
中越地震被災地 防災・減災視察研修会を実施

～ ここまで復興！！「山古志へ戻ろう」の合言葉で、～

平成26年11月14日に防災・減災視察研修会として、10年前に発生した中越地震被災地の視察及び復興施設の見学をしてきました。参加者は40余名。大型バス1台で丁度的人数が集まりました。

新潟には中越地震以降、その教訓を生かそうと「小千谷そなえ館」、「やまこし復興交流館おらたる」、「きおくみらい館」の3施設があります。

「小千谷そなえ館」では、防災講演会で講師をして頂いた木村浩和氏と合流し、ガイドをして頂きながら被災現場を次々と巡って行きました。



現在も水没した家屋は 当時のまま残っています

山古志は、決して平坦な場所ではありません。信号機は、ただ1個です。ややもすれば過疎の村と片づけられてしまうかもしれませんが、住民の団結の元、「山古志へ戻ろう」を合言葉にここまで復興できたのは、住民の方々のこの場所への愛着があったからではないでしょうか。



中越地震被災地 視察会の実施



復興状況を説明

山古志では、当時の道が埋まってしまった後に、全く別の道が出来上がっているところがありました。川が堰き止められ、流れが変わってしまい、家が水没、その上に橋が掛かっているなどの現場を目の当たりにしました。



木籠集落の(拠)り所 交流の場「郷見庵」

いつ起こるかわからない災害。ややもすると忘れてしまう中越地震を過去のものとせず、記憶に留めておく施設には全国から視察に来られるそうです。研修会に参加し、富士見町の防災はどうあるべきか考えさせられました。

ふれあい交流部 船津 保平

発行者責任者 富士見地区地域づくり協議会 会長 小川 浩
編集・監修 富士見地区地域づくり協議会 広報委員会
印刷所 社会福祉法人 あかぎの響